



びっくり!人・人・人 海南海草支部 平和夏まつり

7月23日 土曜日、医療生協 海南・海草支部主催の第3回 平和夏まつりを開催しました。3時半から 子ども企画として 竹細工工作コーナーと紙芝居から開始。たくさんの地域の子もたちが参加し、紙芝居も舞台を自転車に載せたおじちゃんが飴を配って・・・という演出で、大変好評でした。

多目的ホールでは 健康チェックが始まり、20名の参加者の方が健康チェックを受けました。多目的ホールでは 健康チェックが



始まり、20名の参加者の方が健康チェックを受けました。

会場では、屋台の準備が進められ、福引コーナーでは開始早々に特等の自転車が小学生に当たってしまうというハプニングも。

屋台は5時半からのスタートでしたが、地域からぞくぞくと集まりだし、5時半を待たずして屋台での販売が始まりました。焼きそば、たこ焼き、お寿司スーパーボールすくい、輪投げ、パンやゼリーなど合計14店舗が並び、結果、総売り上げが38万円を超えました。

5時半からのステージでは、民商の太鼓がオープニングで始まり、濱野支部長が、東日本大震災をとりあげ、復興に向けて医療生協でも力を入ると挨拶をしました。挨拶の後、民商太鼓、海南 ソーランの会「炎」の南中ソーラン、今回、初めて出演を依頼した、和歌山県のシニアマイスターで地元阪井の鈴木さんによる腹話術と手品、そして、障がい児・者の親の会 たんぽぽの会のみなさんによる太鼓も披露されました。今回のステージの目玉は歌声オールスターズの生伴奏での「のど自慢大会」です。9名の歌手を募集し当日音合わせと言うハードなスケジュールにもかかわらず、皆さん歌手になりきっての熱唱ぶりでした。中でも、ひときわ観客の目を引いたのは、飛び入り参加の子も含めて、4歳の幼児から小学5年生のまでの子どもたちが今人気の「マルモ」の歌を



振り付きで歌ったのが、とても愛らしく好評でした。初めての、企画ということもあり、不安もありましたが、たくさんの方の協力で、大変盛り上がった企画となりました。最後は、恒例の「盆踊り」で締めくり上田副支部長の挨拶で終了しました。

今年の夏まつりは、参加協力券の販売が2300枚を超え、参加者は、今までで最高の約750名、子どもの参加が多いのが特徴でした。地域の方や、組合員、職員との協同で成功した夏祭りとなりました。



つながりあい、支えあい 地域に『わ』を広げよう

近畿ブロック組合員交流集会 (7/23~24) 開かれる

7/23(土)~24(日)、近畿ブロック組合員交流集会が神戸・シーパル須磨で開催されました。近畿各地から300名を超える組合員さんが集いました。和歌山からは21名(組合員・理事18名・職員3名)が参加し、近畿の仲間との交流を深めました。1日目は、全体会で日本医療福祉生協連・藤谷専務が、「今こそ医療福祉生協の出番」と題して基調報告を行ないました。藤谷専務は、今の時代認識の特徴を述べ、このままでは

地域のつながりがなくなり、安心して暮らし続けられない社会がやってくると警鐘を鳴らしました。ここに協同組合としての医療福祉生協の出番があると参加者を激励しました。その後、「高齢者にやさしいまちづくり」(医療生協かわち野)、「組合員センターを中心とした活動」(神戸医療生協)、施設づくり(乙訓医療生協)など単協のとりくみ報告があり多くのことを学びました。全体会が終わってからは、27の分散会に、それぞれが参加し、事前アンケートを素材に、支部活動などの交流を行いました。2分散会で、山本理事と後支部長が座長をつとめました。2日目は、NHK社会番組ディレクターの板垣淑子さんによる、「無縁社会」をテーマにした講演がありました。無縁社会・無縁死の取材、番組づくりを通して、日本社会のゆがみがあきらかになる話となりました。

